



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次

中国と交流協定	2
環境公開講座	3
地震防災シンポ	4
長野県と協定	5
親方・力士激励	6
中・高校学校祭	7
ACE球技大会	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
TEL (0565) 48-8177

いつ起きるか分からない大地震、新型インフル エンザ等の不測の事態に即応できる心構え強調

後藤淳理事長・総長が本年度事務職員研修で講話

後藤淳理事長・総長は八月二十八日開かれた管理職対象の事務職員研修で、講話を行い、学園、大学の歴史を振り返り、学園、大学等の草創期を支えた教職員の尽力を強調したうえで、職員に自信と責任をもつて仕事に臨むよう訴え、また、新型インフルエンザや八月十一日に静岡県内で起きた地震等を例に、不測の事態に対し即応できる心構えを強調しました。



管理職を対象とした事務職員研修で講話をする後藤淳理事長・総長

学園及び各設置校の事務職員を対象とした「平成二十一年度事務職員研修」は、八月二十六日、二十七日の三日間に分けて、八草キャンパス内のA I Tプラザで行われました。後藤淳理事長・総長は研修最終日の二十八日、管理職を対象とした研修の場で、講話を行いました。

その中で理事長・総長は、一九九二年（大正元年）に始まる学園の歴史を振り返りながら、学園の創立から大学開学、八草キャンパス移転等に汗水を流した事務職員らの尽力を強調。そのうえで職員に対し「（仕事を遂行するに当たり）どうしてもやらなければという責任、自信をもって取り組んでほしい」と、学園発展を担う自覚と一層の努力を呼びかけました。また、続く異常気象、八月十一日に静岡県内で起きた地震、新型インフルエンザの流行などを挙げて、日ごろから不測の

事態に対する対応、備えを怠らないようにと、訴えました。

（理事長・総長の講話） 要旨は左欄に掲載

加藤元教授に名誉教授の称号を授与

学園は六月三十日、今年三月末で退職した元愛知工業大学工学部機械学科教授加藤厚生氏に名誉教授の称号を授与しました。加藤氏は愛工大工学部電気工学科卒で、工学部電子工学科講師、助教

授を経て教授となり、工学部機械学科教授を最後に退職。その間、工学部長等も歴任しました。授与式は、本部棟内で行われ、後藤淳理事長が加藤氏に名誉教授称号証を手渡しました。



後藤淳理事長（前列右から3人目）、加藤氏（同4人目）を囲んでの記念写真

後藤淳理事長・総長の講話要旨



学園はあと3年で創立100年、大学も今年開学50年を迎えました。大正元年にできた学園の長い歴史を振り返ってみると、様々な人が携わり、苦労してきました。とくに第2次世界大戦後、名古屋市千種区若水で短大から始まった大学の用地が手狭なため、新キャンパス探しに奔走。最後に、ここ（豊田市八草町）を紹介され、イメージにも

合い、決めましたが、建設前に前理事長・学長（故後藤鉀二先生）と視察に来たが、道も荷車一台が通れるぐらい、周りも竹やぶばかりで、「この山の中に（新キャンパスが）本当にできるのか」と思ったのが、正直なところでした。その中で、学園幹部ほか職員が一丸となり移転に尽力し、今日の学園発展につながったと思っています。現在の職員の皆さんにも、各持ち場で頑張ってもらっていますが、仕事をするに当たり「これは、（自分が）どうしてもやらなければ」という判断、そして強い自信、責任感をもって取り組んでいただきたい。今年は異常気象に加え、死者も出ている新型インフルエンザの流行、静岡県で地震発生と天然、自然災害が相次いで起きています。地震は予測がつかないが、専門家は必ず起きると予測しており、職員の皆さんも、地震を含む不測の事態に常に対応できるように努めていただきたい。

新しい花を咲かせる

愛工大名電高校が中国・南京市第九中学と友好交流協定結ぶ



愛工大名電高校は7月22日、中国・東南大学付属校の南京市第九中学（南京市）との間で交流提携協議書を結びました。同じ学園設置校の愛知工業大学が1980年（昭和55年）に東南大と姉妹校になったのを機に、第九中学と4年前から交流を続けています。今後、両校生徒の交流を通して、友好やきずなを深めていきます。【写真左は、調印後の後藤淳理事長（前列右から5人目）との記念写真】

今回の協定は、両校生徒の相互訪問を通して友好交流、相互理解の推進を図り、両校の教育効果を高めることを目的としています。具体的には、両校代表生徒による親善交流、学内施設・設備の見学等のため、隔年訪問するという内容です。両校の間では、既に隔年訪問を実施しており、今年は中国側から劉強副校長ら教員3人、生徒8人からなる訪日団が7月20日～24日の日程で来日しました。



交流提携協議書に調印する佐藤忍校長（右から2人目）と劉強副校長（右端）



調印式であいさつする後藤淳理事長

調印式は、南京市第九中学の教員、生徒を迎えて高校北校舎西館1階会議室で行われました。両校の校歌斉唱に続き、後藤淳理事長が「よくお出でくださいました。（調印を受けて）両校が仲良く手を取り合って、これからも永くおつき合いができるよう、祈っています」とあいさつした後、佐藤忍校長が「歴史的な素晴らしい日となりました」、劉副校長が「新しい花を咲かせ、大きな一歩を踏み出しました」と、それぞれ調印の喜びを述べました。

佐藤校長、劉副校長は後藤淳理事長、後藤泰之学長、趙竹紅第九中学教諭ら両校関係者、生徒の見守る中、交流提携協議書に署名した後、出席者に協議書を披露、大きな拍手を受けていました。さらに、両校の教職員や生徒が後藤淳理事長、後藤泰之学長を囲み、記念写真を撮りました。

調印式の後、南京市第九中学の一行は名電高内を回り、各施設を見学。コンピュータ室で情報デザイン部員の制作した作品を見たり、ランチルームで学食を楽しみました。午後から劉副校長ら教員は、八草キャンパスに後藤泰之学長を訪ね、歓談しました。さらに、学園職員の案内で、1971年（昭和46年）3月に名古屋市で開催された世界卓球選手権大会への中国チーム招へいを実現させ、米中、日中国交正常化の基礎を整えた当時日本卓球協会会長で学園理事長・学長の故後藤鉀二先生の銅像や地域防災研究センターなどを見学しました。



愛工大八草キャンパス内の後藤鉀二先生の銅像前に立つ劉副校長（右から3人目）、佐藤校長（同4人目）

南京市第九中学は

日本の高校に相当し、東南大の付属校。男女共学で、中国では文武両道の進学校として知られ、2005年に創立80周年を迎えました。生徒数は約5,000人。名電高とは2005年（平成17年）から交流を続けています。

事務主任(左) 美係長(右)と中嶋研索

【写真は、高間智を受講しました。】

た。応募者の中から、事務課の高間智美係長、キャリアセンターの中嶋研索事務主任の二人が初選の語学研修生に選ばれました。

二人は、八月十七日、九月七日まで、米国のエドモントン州のエドモントン・コミュニティカレッジで行われた愛工大アメリカ語学研修に、引率者も兼ね参加。学生と同じ日常生活に欠かれない英会話、基本文法を学ぶE S L（英語学習プログラム）を受講しました。



職員
の海外
語学
研修
始まる

本年度から、職員は学園は始めました。学研修をの海外語

環境公開講座

建築家・安藤忠雄氏が愛工大で、「地球があぶない」をテーマに講演
—本学含む環境7大学公開講座で—

建築家・安藤忠雄氏の講演会が七月十九日、八草キャンパス内の愛和会館講堂で開かれました。来年、名古屋市中で開催される「COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）」を前に、市民一人ひとりが環境問題を考えようと企画された本学を



上は、講演する安藤忠雄氏。右埋まは、聴衆で環境7大学公開講座会場



含む愛知県内七大学による環境集中公開講座2009の一つです。講堂を埋めた約五百人余の聴衆が、安藤さんの話に耳を傾けていました。

本学の後藤泰之学長が「環境は重要なテーマで中部地域でも環境保全の機運が高まっており、今回の講演は極めて意義深いものがあります」と、あいさつした後、安藤氏が「地球があぶない」と題し、講演しました。日本は外国人も驚く好奇心の強い、民度の高い国だったのが、今では目標を見失った迷走社会に変わってしまった—という話に始まり、大工さんの仕事を見て、建築家を志し、その建築家の仕事を通して様々な環境保全活動に携わるようになったと、ユーモアたっぷりに聴衆に語りました。

安藤氏は、一九四一年大阪に生まれ、独学で建築を学び、六九年に安藤

忠雄建築事務所を設立。独創的な発想で各種建築の設計、建築に携わり、内外から高い評価を受けています。代表作は「東急東横線渋谷駅」「フォートワース現代美術館」等で、日本建築学会賞、日本芸術院賞と数多くの賞を受賞しています。今回の環境7大学集中公開講座2009の参加大学は、本学のほか愛知学院大、愛知淑徳大、中京大、中部大、南山大、名城大です。

大工50周年記念 愛工開業50周年記念



大原教授 曾我教授 鶴飼教授 上田社長

組込みシステム教育先進校、企業招きシンポジウムを開催 —学内の理解、コンセンサス確立求め—

開学50周年記念公開シンポジウム「組込みシステム教育の実践—先進校に学ぶ—」が七月三十一日、八草キャンパス内の愛



熱心な討議が繰り広げられた組込みシステム教育シンポ

和会館講堂で開かれました。シンポジウムは本学、名古屋工業大などで行われる「工科系コンソーシアム（戦略的連携支援事業）」の協賛を得て、組込みシステム教育やソフトウェア開発に早くから取り組んでいる大学、企業各担当者の講演、ミニパネルディスカッションを通し、学内での組込みシステム教育に対する

理解、コンセンサスを高めるのが目的です。講師は、大原茂之・東海大専門職大学院組込み技術研究科長・IPSA/SECリサーチフェロー、曾我正和・岩手県立大地域連携研究センター組込技術研究所長、鶴飼裕之・名工大創成シミュレーション工学専攻長、上田政博・アイシン・コムグループ（株）社長の四人。組込み技術と特長、日本の現状などを説明した大原教授、大学教育で実践している組込みソフトウェアを語った曾我教授、と各講師がそれぞれの大学や企業の現場で取り組んでいる組込みシステム教育、ソフトウェア開発を分かりやすく、話しました。この後、阿部圭一本学情報科学部長を司会に、ミニパネルディスカッションが行われました。会場には教職員、学生が詰めかけ、他大学の組込みシステム教育や企業のソフトウェア開発の現場の状況を真剣な表情で聞いていました。

開学50周年記念事業-2

巨大地震に備えた防災力の向上をテーマにシンポジウムを開催
—南海トラフを焦点に活発に討議—



「南海トラフの巨大地震に備えた企業防災力向上の取り組み」をテーマに開かれた愛工大開学50周年記念シンポジウム

愛工大・地域防災研究センター(センター長・正木和明都市環境学科教授)が六月四日、名古屋市内のホテルで開催しました。巨大地震に備えた産官学の取り組みをテーマとした講演と、センターが平成十六年度から二十年度まで文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業支援を受けて取り組んできた「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開

発」プロジェクトの成果報告、懇親会の三部構成で行われました。シンポジウムの開成式で、後藤泰之学長が「本学の防災研究成果を、地域の防災力向上に貢献していきたい」とあいさつ、来賓の小山竜司文部科学省私学助成課長が祝辞を述べました。

一部の講演では、本学の入倉孝次郎客員教授、山崎登NHK解説委員が、最近の被害地震に学ぶ地域災害軽減の方策等テーマに、基調講演を行いました。また、池内幸司内閣府参事官ら三氏が政府や気象庁の進めている防災の現状、今後の展望を講演しました。二部では、「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」プロジェクトについて正木センター長、西村

雄一郎センター客員准教授、今井則久あいぼう会運営委員らが、プロジェクト成果の概要、企業防災システムの構築、あいぼう会の活動等を説明しました。この後の懇親会も、多数が出席、盛況でした。

「ものづくり」の力を結集した映画『築城せよ!』を製作、全国で公開
一段ボールの城造り、講演等のイベントも

映画「築城せよ!」は6月20日、東京、名古屋の映画館を中心に封切られ、初日、名古屋では後藤泰之学長ら製作、出演者の舞台あいさつがにぎやかに行われました。愛工大の学生が映画の顔である段ボール城に合わせ造った段ボールのミニ名古屋城も各地で展示され、「ものづくり」の素晴らしさをアピールしました。



写真左は、ミッドランドスクエアシネマで舞台あいさつをする後藤泰之学長。写真右は、古波津陽監督、海老瀬はなさん、阿藤快氏、木津誠之氏(左端から)

「築城せよ!」が上映された名古屋駅前のミッドランドスクエアシネマでは、エグゼクティブプロデューサーの後藤泰之学長、古波津陽監督、ヒロインで女子大生役の海老瀬はなさん、その父親でよみがえった武将の靈にとり付かれた大工役を演じた阿藤快氏、豊田市出身でホームレス役の木津誠之氏が、舞台あいさつをしました。学長の本学と映画との係わりを含めたあいさつや、阿藤氏ら俳優陣の映画にかけた意気込みに観客から大きな拍手が沸きました。



瀬戸蔵ロビーに展示された学生が段ボールで造った名古屋城

愛工大の尾形素臣建築学科教授の指導で大学院工学研究科の院生、建築学科の学生らが、映画公開に併せて、段ボール一千枚余を使って名古屋城天守閣上層二階部分(石垣部分を含め高さ約四五メートル)を作りました。お城は、映画の先行上映会(六月六日)が行われた瀬戸市・瀬戸蔵や各イベント会場で展示され、話題を集めました。また、森豪総合教育教室教授の講演「日本を元気にする映画『築城せよ!』」、尾形教授、学生との「映画『築城せよ!』」の特別講座が五月三十日、愛工大本山キャンパスで、開かれました。工作教室では小学生が学生とイスづくりを楽しみました。

開学50周年記念事業-4

からくり人形制作で国際交流深め合う

国際からくりワークショップが7月31日～8月8日まで、八草キャンパスの12号館内の「みらい工房」で、“ものづくり”（からくり人形製作）を通して、国際交流を深め、国際的視野を広げる目的で開かれました。



本学と姉妹校、交流提携を結んでいる中国・東南大学、米国・ジョージタウンカレッジ、韓国・韓国海洋大学校の学生12人、本学の学生8人の計20人が参加。参加者は、九代目玉屋庄兵衛さん（からくり人形師、本学客員教授）やお弟子さんの指導で、最初に人形作りに欠かせない小刀などの道具に慣れるため、高さ約45センチの采振りからくり人形を作りました。この後、4グループに分かれて、高さ90センチの大型采振りからくり人形に挑戦しました。



昨年と違って今回は、グループで話し合っ、「マイケル・ジャクソン」、「ピノキオ」、「舞妓さん」、「芸者さん」の姿をした各からくり人形の制作に挑み、慣れない工具に苦労しながら、完成させました。



最終日の8月8日は、担当した国際交流室長の櫛田玄一郎機械学科教授、前回まで係わってきたエクステンションセンター長の森豪総合教育教室教授らが出席し審査、表彰と閉会式が行われました。玉屋氏が「初めての人形作りには、良い出来です。帰国されたら、“からくり人形”の紹介を宜しくお願いします」と講評し、全員にベストマイスターの認定書を贈りました。最後に、作品をバックに全員で記念写真に収まり、完成を喜び合いました。

上から、日本の芸者さん、舞妓さんを題材にした各からくり人形と制作メンバー

上から、ピノキオ、マイケル・ジャクソンを題材にしたからくり人形と制作メンバー



人形制作に挑戦

まず道具の使い方から



頑張りましたね



最後に「からくり人形」とパチリ

【写真は、協定書を披露し、握手を交わす村井仁長野県知事(左)と後藤泰之愛工大学長(右)】

この日の協定調印式は、長野県庁(長野市南長野)で行われ、長野県から村井仁知事、黒田和彦商工労働部長、本学から後藤泰之学長、村瀬洋キャリアセンター長らが出席。知事と学長が協定書に署名した後、「優秀な人材確保や地域の活性化につながることを願っています」とあいさつし、固く握手を交わしました。

協定では、本学と県が連携、協力し県内の企業情報提供、就職活動支援を通して、県内出身学生のUターン就職の一層の促進を図ることを目的としており、学生に企業情報などの周知徹底、合同企業説明会や企業情報提供イベントの開催を両者が連携、協力し取り組むことにしています。



同県の説明では、県外の大学に進学する生徒が約85%に対し、卒業後、地元企業に就職(Uターン就職)するのは半分ほど、ということ。このため、企業の望む人材の不足―特に若手技術者確保に苦労しており、県は県内からの進学者数が多く、工科系総合大学で条件にかなうとして本学と今回、学生Uターン就職促進に関する協定書を締結しました。

愛工大、長野県が「信州学生Uターン就職促進の協定」を結ぶ

愛工大は六月十日、長野県との間で「ふるさと信州学生Uターン就職促進に関する協定」を結びました。長野県が大学とこうした協定を結ぶのは初めてで、全国的にも珍しいということです。



分かりやすい指導で初心者が多い参加者に好評な「パソコン教室」

作りまでを学習。初めて

市民らに好評－名電高オープンスクール

今回のオープンスクールは、▽家電修理▽将棋講座▽基礎電子工作▽実験講座▽日本書紀を読む▽パソコン教室▽メディア・ライブラリー。家電修理、メディア・ライブラリー以外は事前に申し込んだ人を対象としています。

地域との交流を目的にした愛工大名電高校の「オープンスクール」が六月六日からスタート。市民らに好評な教室など多く、毎回、参加者でにぎわっています。



毎回、修理や相談に訪れる市民(右)が絶えない「家電修理」

北校舎東館三階のコンピュータ室では、市民を対象にした「パソコン教室」が開かれ、参加者が簡単な文書作成からチラシ作りまでを学習。初めてパソコンに触れるという人もいて、先生が一人ひとりに丁寧に説明に当たっていました。参加者は「パソコンの使い方が分かったので、これから活用していきたい」と話していました。

また、愛名館内の電気実習室を会場にした「家電修理」には、事前の申し込みが不要なため、テレビ、音響装置、パソコンなどを持ち込む市民の姿が絶えませんでした。

会場では故障箇所を調べることが一杯で、修理可能な製品を預かり順次、修理し返却することになっています。本年十二月まで開催されます。

イチロー選手の偉業称え

名電高は九月十四日、野球部OBで米大リーグ・シアトルマリナーズのイチロー(本名・鈴木一朗)外野手の大リーグ新記録となる九年連続シーズン



「相撲部出身の親方・力士を励ます会」が7月19日、名古屋市中区錦の名古屋ガーデンパレスで開催されました。毎年、名古屋場所中日に開いており、今回は若松親方(昭和63年卒)、大鳴戸改め関ノ戸親方(平成5年卒)、木瀬川部屋三段目、井上康政さん(平成15年卒)が出席しました。

励ます会開催！名電高相撲部出身の親方・力士を囲んで

若松親方ら3人が、「これからも頑張りますので応援、宜しくお願いします」とあいさつ、佐藤忍校長、愛知県相撲連盟副理事長で(甚目寺)南中学校の松永裕和校長らが激励の言葉を述べた後、稲垣慎二愛工大副学長の音頭で乾杯しました。

励ます会には、名電高、附属中の相撲部員18人のほか、名電高関係者や後援会会員が大勢、出席して盛り上がりました。

【写真は、「励ます会」であいさつする若松親方(中)と関ノ戸親方(右端)、井上さん】

200安打達成を祝って高校正面玄関前の時計塔に垂れ幕をかけました。イチロー外野手は十三



日(日本時間十四日)、レンジャーズとのダブルヘッダー第二試合で、大リーグ新記録を打ち立てました。高校では、新記録達成と同時に時計塔に「祝イチロー選手メジャー新記録おめでとう！」と書かれた長さ十尺、幅八十センチの垂れ幕をかけて、偉業達成を祝福しました。四月にイチロー選手が日本プロ野球最多安打記録を更新した時にも「生徒の誇り、励みになれば」と、時計塔に垂れ幕をかけた。佐藤忍校長は「イチロー選手が本校の卒業生であることは誇りであり、本校の財産といえます。そのことを大事にし本校の発展に結びつけていきたい」と、話していました。通りかがりの市民も垂れ幕を見て、イチロー選手の偉業達成に祝福をおくっていました。

【写真は、イチロー選手を称える垂れ幕】

秋晴れの9月18日、愛工大名電高校、愛工大附属中学校で恒例の「学校祭」が開かれ、生徒らの手になる盛りだくさんなイベントが繰り広げられ、にぎやかな歓声に包まれていました。

「夢にときめけ 明日にきらめけ!!!」をテーマに、新校舎のほか愛名館を会場に行われました。愛名館では開会式に続き、中学1～3年の各代表による弁論大会や、



見事な変身に保護者も感心

高校生生の劇、教諭も加わった有志のバンド演奏等が披露され、盛り上がりました。各教室ではクラスごとに出し物を競い合い、中学のクラスが企画した「女装・お笑いコンテスト」

では特設の

若く輝く学校祭



生徒の占いに保護者も興味



出前授業で児童に理科実験の楽しさを話す榎村教諭

は、横地徹校長、保護者らも、生徒の占いの結果を神妙に聞いていました。ロボット部はサッカーロボ実演で研究成果を披露していました。

ロボット部のロボット展示



「絆~with your smile~」をテーマに生徒会、ステージ、クラスの各企画に分かれ、趣向を凝らした催しを、各教室、講堂兼体育館・喬徳館、1階中庭の光の庭、駐輪場を会場に開催。喬徳館では、そろいの衣装と振り付けで生徒が、クラスごとにスピード、躍動感あふれたダンスを披露し、観客の同級生、保護者から大きな拍手を受けていました。



声援が一段と高かったダンス



ステージ上で熱唱する生徒

いやしてくれる「メイドとしつじ」など生徒考案のイベント、部活紹介コーナー等が競い合い、行列ができるほど盛況でした。相撲部のちゃんこ鍋も出た模擬店は、完売続出でした。



優しいメイドに生徒も満足

名電高教諭が小学校で「出前実験授業」

名電高の榎村和幸、加藤幸伸両教諭が七月十三日、稲沢市清水の市立清水小学校で出前実験授業を行いました。同小は児童に好評だった市の事業「授業名人活用事業」が昨年度で終了したため、ボランティアで授業名人をしてくれる人がいないか、探していました。

榎村教諭は同校卒業生で、知人の前校長の依頼もあり、児童の理科への関心、興味を高めてもらう機会になればと、出前授業を引き受けました。当日は理科室で「おもしろ物理実験」と題し、加藤教諭と二人で六年生四十七人に紙を使ったブ

「メラン作りを教え、卵に乗っても割れないという「脅威の卵乗り」などの実験を披露しました。

「築城せよ!」を鑑賞



附属中学の全生徒、教員が六月九日、名古屋市中区和区労働会館で、

愛工大開学50周年記念事業として製作された映画「築城せよ!」を劇場公開に先立ち、鑑賞しました。

映画の上映前に横地徹校長が「この映画は愛工大の開学記念事業としてつくられ、大学の学生らの協力でできました。家庭に帰ったら、保護者の人たちにも話してあげてください」と話しました。映画が始まると、話し声も聞かれた場内がシーンと静まり、生徒らはスクリーンに見入っていました。

【写真は、記念映画について生徒に説明する横地校長】

高校と附属中学が合同学校説明会 ＝名古屋市内のホテルで開催＝

「きたい」とあ

愛知県などの塾関係者に両校の概要、平成二十二年の入試内容などを知ってもらうのが目的。説明に先立ち、佐藤忍高校長、横地徹附校長が「地域をリードする人材育成等に努めており、今まで以上に優秀な生徒を送っていた」と

愛工大名電高校と愛工大附属中学校は九月十六日、名古屋市中区のホテルで合同学校説明会を開きました。



塾関係者対象の名電高、附中合同学校説明会



大勢の保護者、児童が詰めかけ盛況だった附属中学のブース

私立中進学フェア で附中ブース人気

名古屋市中区栄の松坂

説明会では、高校は後藤芳樹教頭、附中は川越英司進路部長が学校の沿革から現況、最新の進学、就職状況について写真、グラフなどを活用し、きめ細かく説明しました。両校の本年度の志願者数や合格ラインなどに、出席者の関心が高かったようでした。説明会には、二百人近い塾関係者が出席。配布された資料に目を通し、入試内容をメモするなどしていました。この後の懇親会では、両校の入試担当者も加わり、意見交換も行われました。

屋本店南館マツザカヤホール、オルガン広場で七月二十五、二十六日の両日、附属中を含む県内の二十二校が参加して「2009私立中学進学フェア」が開かれました。来場者総数は、二日間昨年を上回る八千九百二十一人でした。初日、開場と同時に附属中ブースには大勢の児童、保護者が詰めかけ、教職員が応対に汗だくでした。児童や保護者は、ブースに貼られた校舎や学校の様子が一目で分かる写真等を見ながら、教職員から男女共学の完全中高一貫教育を含む本校の教育方針、平成二十二年の入試概要等の説明を受けていました。

ACE 球技大会

愛工大情報電子専門学校の第19回球技大会が6月26日、豊田市八幡町のスカイホール豊田で開かれ、学生約100人が参加しました。

競技種目は、フットサル、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球の5種目。学生らは、クラスごとにチームを組み対戦。スピードが魅力のバスケットボールでは、各試合とも選手らが激しくボールを取り合い、コート上で白熱した戦いを繰り広げていました。

成績は、以下の通りです。

- 【バドミントン】①CAD・CAM学科2年②高度情報処理学科2年③CAD・CAM学1年④高度情報処理学科1年
- 【卓球】①CAD・CAM学科2年②情報工学科1年 αチーム③高度情報処理学科1年④情報工学科1年 βチーム
- 【バレーボール】①CAD・CAM学科1年②高度情報処理学科1年③CAD・CAM学科2年
- 【フットサル】①CAD・CAM学科2年
- 【バスケットボール】①高度情報処理学科1年



バスケットボール競技でボールを取り合い、熱戦を繰り広げる学生ら

編集後記

▼日本の政界は今夏、大きく変わりました。民主党が総選挙で圧勝し、政権を握りました▼民主党の勝因については新聞等で詳しい分析結果が出ており、皆さんもご存知だと思います▼「敢えて言うなら「驕る平家は久しからず」ということでしようか▼長く物事を続けていくと、いつか「初心」を忘れ「慢心」「惰性」に陥り、人の心も離れていきます▼学園はあと三年で創立百周年、大学は今年、開学五十周年を迎えました▼政治の世界と違い、建学の精神を忘れることなく、学園は大学を含む四校の設置校を擁する総合学園に、大学は今年から工学部など三学部体制の工科系総合大学に――と着実に発展し続けています▼それを支えてきたのが学園トップの揺ぎ無い経営方針、教育理念。そして教職員のたゆまぬ努力といえます▼今、教育界を取り巻く環境は厳しいといえます。それだけに、「初心」を忘れず、チャレンジ精神で臨めば、新たな展望や発展も自然と拓けるのではないのでしょうか。(久)